

## 【新型コロナウイルス感染症第2波への準備状況アンケートを実施】

※アンケート集計結果は、看護協会とも共有させていただき、自民党との政策懇談会事前打合せの参考資料とさせていただきました。

### 【新型コロナウイルス感染症第2波への準備状況アンケート集計結果】

アンケート調査期間 2020年7月10日～7月22日

- 設問1 配布数 ; 45施設 回収数 ; 36施設 回収率 ; 80%
- 設問2 施設状況 ; 許可病床数 50～1132床 老人保健施設×1 訪問看護 ST. ×1
- 設問3 指定感染病床あり ; 8施設? (栃木県 = 6施設)
- 設問4 感染管理認定看護師の有無 ; あり = 13施設 (17名)  
(最高ベッド数 = 1132床 最小ベッド数 = 199床)
- 設問5 感染者受け入れ ; 受け入れた = 10施設
- 設問6 感染疑い患者受け入れ ; 25施設
- 設問7 対応で工夫した点

#### ○300床以上施設

- ・面会禁止、オンライン面会（患者、家族への対応）
- ・出入口を一か所にした。外来トリアージ開始（来院者全員の体温チェック等）
- ・患者の重症度に合わせて受け入れ病棟を決めた。病棟の機能レベルを作った。  
(コロナ受け入れ病棟のみ隔離する構造とした ; バリケードの設置、他病棟と完全に出入口を分けた)
- ・コロナ感染症対策委員会等の設置・定期的開催
- ・患者受け入れのための体制整備（病床の再編・ゾーニング・心のケア等）
- ・職員の感染防止

ガウン、フェイスシールドを手作りした。マスク使用枚数の制限

#### ○300床以下施設

- ・原則面会禁止
- ・共有エリアの使用制限
- ・来院者全体の体温チェック・有熱者トリアージ（発熱者外来の実施）
- ・固定スタッフでの対応（できるだけ少人数での対応）
- ・有熱者隔離のためのコンテナ設置
- ・救急部へのCT増設
- ・マニュアルの作成・整備、感染防止委員会の開催
- ・感染症対応のための1看護単位を構成
- ・全館放送による定期的な喚起の促し

- ・防護服の着脱の研修
  - ・陰圧式車いすの導入
  - ・院内に職員用宿泊用の部屋を作った
  - ・看護部の宅直システム構築
  - ・車内にて、患者、家族とスマホによる診察
  - ・外来部門にクリアカーテン設置
  - ・透析のベッド間隔をあけた。時間を延長し密を防いだ
  - ・近隣病院の感染管理認定看護師に相談、アドバイスを受けた。
- 指定感染症を持っている施設
- ・一般入院患者への交差感染防止として、同一病棟での受け入れ中止
  - ・出入口を一か所にした
  - ・面会禁止
  - ・来院者全員に体温チェック
  - ・職員の感染防止
  - ・コロナ患者対応に関する業務担当の意思確認
  - ・観察を遠隔で行うために見守りテレビ電話パルモの導入
  - ・院内に職員用宿泊用の部屋を作った
  - ・陰圧式車いすの導入
  - ・感染病棟の余剰スタッフの他病棟への応援体制（感染病棟における入院患者減のため）
- 老人保健施設
- ・急激に感染者が増えた場合、病院への入院ができないことも想定し感染防護具の準備をした。

#### 設問8 感染管理認定看護師が特に活躍した内容

- 300床以上
- ・患者の導線や患者の対応マニュアルの整備 ・感染対策強化
  - ・行政（保健所）との連絡
  - ・有熱者トリアージ、ゾーニング
  - ・検疫チームを立ち上げ、教育や啓発活動
  - ・防護服装着・着脱の訓練、職員教育
  - ・外部組織との連携
  - ・呼吸器内科医師とともに強力なリーダーシップ
  - ・ICT と看護部のパイプ役
  - ・全職員の感染防止

○300 床以下

- ・感染予防対策の指導
- ・知識や技術に対する勉強会。相談対応、実習生への指導
- ・防護服の管理、選定、事務職との協働
- ・保健センターとの連携、情報共有
- ・感染防止マニュアルの修正、周知
- ・スタッフ教育、院内掲示物作成
- ・外来での有熱者対応

設問 9 感染への不安のため退職した職員の状況

- ・看護職 2 名
- ・事務職 1 名
- ・その他 1 名

設問 10 第 2 波に対しての準備状況

○300 床以上

- ・PPE を含めた物品・備品類の確保
- ・外来及び面会者の体温チェック
- ・発生状況に対応するためのレベル別分類の策定
- ・職員の精神的、心理的負担軽減（職員の教育と心のケア）
- ・マニュアルの整備、対応するための組織化及び各個人のスキルアップ
- ・職員のローテーションとタイミング、感染病棟で勤務する看護師の準備
- ・院内でのコロナ検査体制の整備
- ・病床確保（陰圧式）・感染病棟のゾーニング工事計画策定
- ・対応スタッフの更衣室、シャワー室、宿泊個室の確保等
- ・サーモグラフィーの導入の検討

○300 床以下

- ・防護服等の備品・物品の備蓄
- ・ゾーニング発生時のシュミレーション
- ・来院者全員の問診の再開準備
- ・対応するための組織化及び各個人のスキルアップのための訓練
- ・メンタル強化及びメンタルケアの具体的対策
- ・病院全体で必要物品の節約を継続
- ・有熱者トリアージの継続
- ・院内ルール（マニュアル）の整備
- ・院内で発した時の BCP 作成

- 老人保健施設
  - ・感染を施設内に持ち込まない教育の徹底
  - ・PPE の正しい使用法の研修を繰り返す

- 訪問看護 ST.
  - ・マスク等の備蓄
  - ・食事時のテーブル仕切り

#### 設問 11 第 2 波が来た場合、一番危惧していること

- 300 床以上
  - ・受け入れ病棟に当たるスタッフの精神面へのダメージ
  - ・院内感染の発生とそれによる診療機能の停止
    - (クラスターの発生により、医療スタッフの不足等)
  - ・病院の経営不振により職員への賞与の減少
  - ・1日に何名くらい入院してくるか予想できない
  - ・物資の不足と人材不足(コロナ感染、退職等)
  - ・産科病棟、手術室の安全確保
  - ・患者減、収入減、風評被害
- 300 床以下
  - ・医療従事者の不安の増強等による離職
  - ・無症状の陽性患者が病院内で診察を受けてしまうこと
  - ・感染者(地域での)との濃厚接触などによる休職、スタッフ不足
  - ・職員、家族の感染に伴う人員不足(院内感染、職員によるクラスター)
  - ・医療者への偏見
  - ・病院経営への影響
  - ・透析患者への感染
  - ・高齢慢性期の病院における入院患者への感染
  - ・患者の受診控えによる健康状態悪化
- 老人保健施設
  - ・高齢者施設のため、施設内感染を何とかして避けたい
- 訪問看護 ST.
  - ・長期化することによりマスク等がなくなり仕入れ困難になることへの不安

#### 設問 12 その他

- 300 床以上
  - ・すでに栃木県内で無症状の患者や若年者の陽性者が増加している。常に受け入れ

の準備とシュミレーションが大切と思っている。

- ・第2波を想定していることから、病棟利用が回復せず、陽性者の受け入れのために空床にしていることから病院収益激減
- ・当院のような近隣の指定病院は2月よりコロナ患者を受け入れている。指定医療機関等、経営面での配慮をお願いしたい。
- ・職員食堂の利用を対面禁止。食事中マスクを外しているときの会話禁止
- ・面会制限、アイパッドによる面会。抗体検査開始
- ・コロナ専用病室7床確保しているが、担当看護師の選出、交代要員の確保について  
病院による基準が異なる。保証・保障が違う。
- ・士気を維持するのが難しい。
- ・補助金の申請をスピード感をもって対応いただきたい。

#### ○300床以下

- ・他施設の対応状況や対策について情報共有できると良いと思う。
- ・7月後半より当院でのPCR検査実施に向けて準備中。
- ・万全を期しているが、もし看護職が感染してしまったら、職員や病院を守ってほしい。
- ・発熱外来は公表していない。明らかに感染が疑われる場合は（診察依頼を）受けていない。
- ・政府は、コロナ患者受け入れに関わらず、多くの施設で対応していることを理解して支援してほしい。

#### ○老人保健施設

- ・マスクやアルコール消毒剤が、多く流通するようになっているが施設に充足されてこないのはなぜか？疑問に思う。
- ・給与、ボーナス等が減額され苦しいです。
- ・人員も増える予定はなく、介護現場の人出不足は更に進みそうです。

\* 集計方法として、厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業を参考に、ベット数300床を基準にまとめさせて頂きました